

医学界 昨日までの嘘

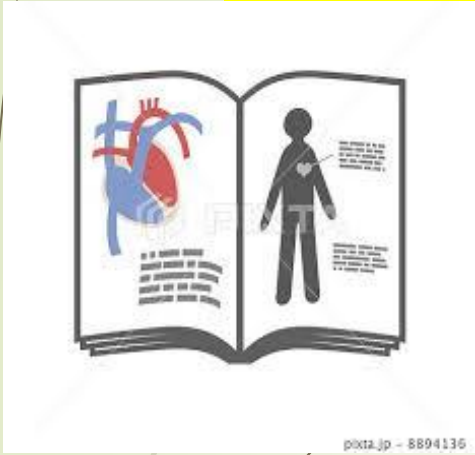
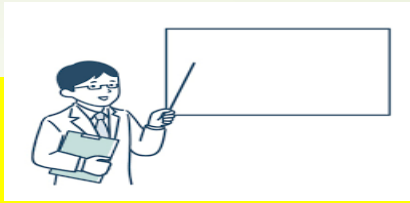


今日からは本当?!

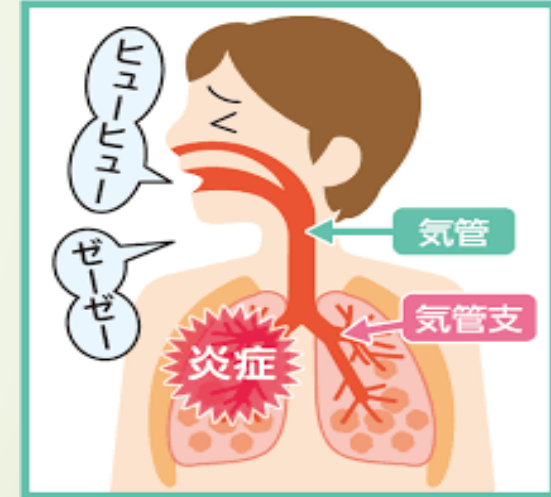


過去と現在で

定義や治療の考え方が 違うようになった疾患

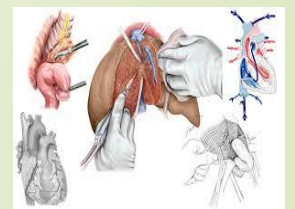
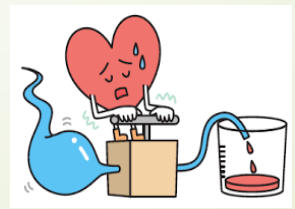


- ➡ **①胃潰瘍** ITP マルトリンパ腫
- ➡ **②気管支喘息**



他に

- ➡ **③心不全(β- Bloker)**
- ➡ **④糖尿病(メトホルミン) など**



① 胃潰瘍 → 感染症(ピロリ菌) → 胃癌

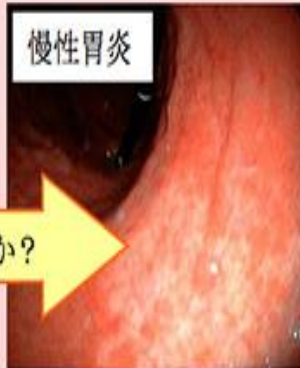
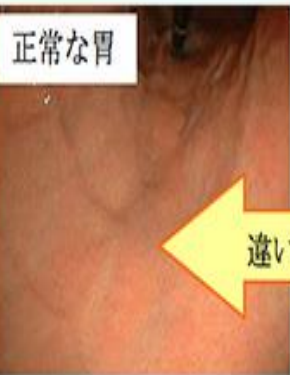
※40年前の教科書にはストレスが原因と書いてあったが間違い



症状が出る前に！
検査をお勧めします。



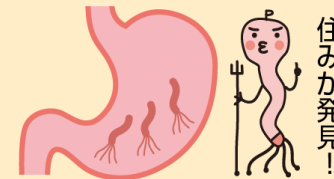
ピロリ菌の感染により、
胃の粘膜に炎症が起こり
赤くなった状態。



違いがわかりますか？

1 ピロリ菌に感染

- ・井戸水感染
- ・家族(親子)感染



住みか発見！

2 感染者は100% ピロリ菌感染胃炎 (慢性活動性胃炎)に発展



ちよっと攻撃

3 消化器系の各種疾病

- ・胃炎 ・胃潰瘍
- ・十二指腸潰瘍



さらに攻撃

4

胃がん



ヘリコバクター ピロリ除菌

1次除菌

2次除菌

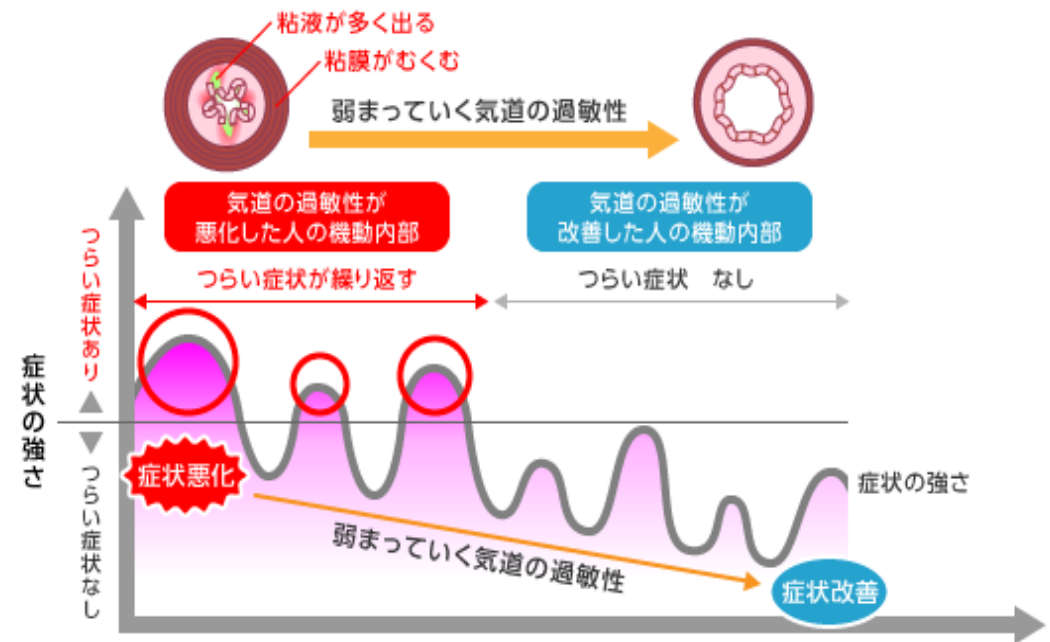
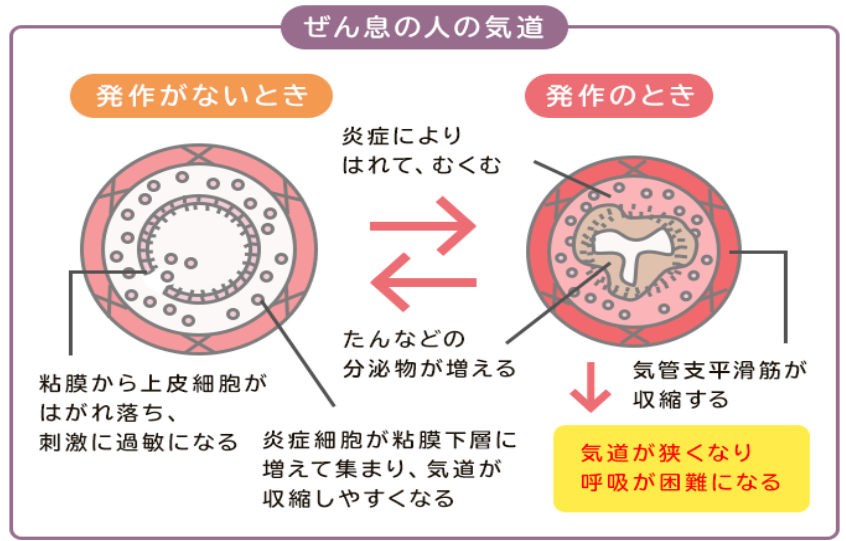
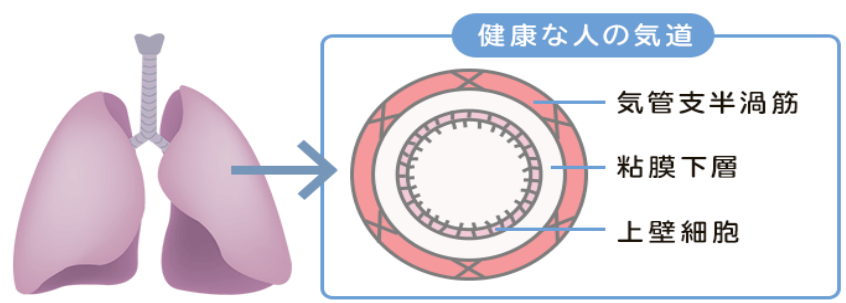
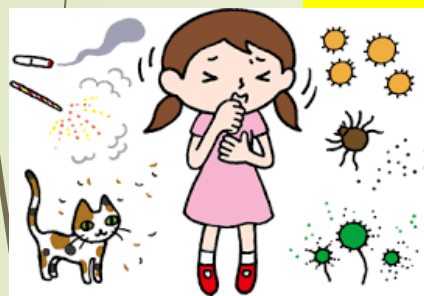


②気管支喘息 → 気道炎症 →

吸入ステロイド



※喘息にステロイドは感染を起こすのでダメと言われていた



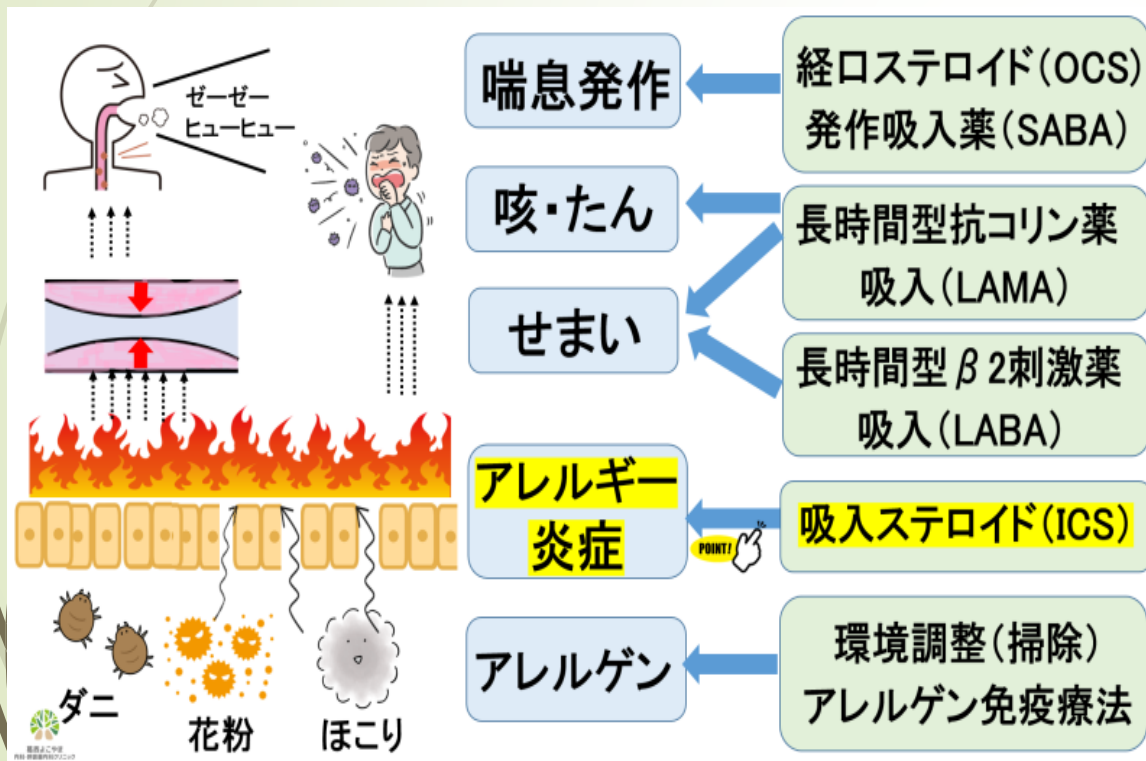
気管支喘息の病態
ピークフロー値との関係・治療薬の考え方

状態	喘息発作が頻発する状態	コントロール不良時	コントロール良好時
気管支の状態			
気道の過敏性の程度	(++++)	(++)	(-)

- 薬を使うタイミング
- 1 基本的治療薬 (抗アレルギー薬) 気道の過敏を改善
 - 2 抗炎症薬 (吸入ステロイド) 毎日吸入
 - 3 症状改善薬 (吸入の気管支拡張薬) 発作の時に使用

気管支喘息の治療

治療の進め方



喘息吸入薬の種類



結 語

- ① 医学界のみならず、歴史学・文学・物理学・天文学・工学関係の物事において昨日までの常識が覆されることもある。
- ② 我々診療に携わる者は、絶えず**真実は何かを追及し、この診断で良いか、この治療で間違いがないか**を頭の片隅に置いておく必要がある。
- ③ 100%正しい診断と治療が出来ればBESTだが、それが無理な場合でも、あらゆる可能性を考え**1回の診察で最高に早く治るように努める**必要がある。
- ④ **薬剤師は処方箋に沿って仕事を進めるが、疑問に思ったことは処方医にその意図を尋ねるべき**である。医師は薬剤師の質問に対して謙虚な姿勢で自分でわかる範囲のことは、全て説明すべきである。**両者は常日頃から自由に質問や意見を交換していく関係性を築く**ことが大切である。

